

福島県中学校長会 広報

・会長「就任の挨拶」……………	1
・令和3年度第71回福島県中学校長会総会…	2
・組織及び役員一覧……………	2
・学校教育の今日的課題	
「学校経営を考える」……………	3
・令和3年度中学校長会の活動と運営…	4～6
・第72回全日本中学校長会WEB総会報告…	6
・支会情報と特色ある経営	
(伊達・郡山・東西しらかわ・北会津)…	7～10
・新会員紹介 新会員の声……………	11
・随想「不易と流行+α」……………	12



就任の挨拶

福島県中学校長会会長 佐藤 浩哉
(福島市立福島第一中学校)

今年度、福島県中学校長会会長を拝命いたしました。新役員・事務局員の皆さん、各支会の校長先生方のお力添えいただきながら、誠心

誠意、務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、佐藤 晃前会長様をはじめ本年3月末をもってご勇退されました校長先生方のご功績に敬意を表しますとともに、長年にわたるご指導に對しまして、心より感謝を申し上げます。

昨年度は、コロナ禍のため、全日中、東北地区中の研究協議会が大会誌に替える開催となり、会津大会も中止となりました。校長同士、直接会って言葉を交わすことの重要性を改めて痛感しましたが、各支会の協力と各支部の努力により、本会の事業は、紙面開催や中止となる会議も多々ありましたが、しっかりと推進することができました。その主なものとして、行財政部会の調査・分析をもとに行った要望活動、研究部会による研究集録の刊行、進路指導部会による県教育庁との話し合いや入試制度にかかる情報提供、また、「中学校生活と進路」の編集、生徒指導部会の調査・分析、そして小中合同の研修会開催や「生徒手帳」の編集、さらに、広報部会による2回の広報紙の発行など、しっかりと事業を展開することができました。また、教職員の働き方改革や児童生徒のインターネット活用について、新聞社等へ情報を提供し、社会全体の問題として提起することもできました。

さて、学習指導要領の全面实施となった今年度、GIGAスクール構想による生徒一人一台のタブレット端末に関連したICT教育にかかる研修をはじめ、不登校、いじめ、虐待、SNSを起因とした諸問題、働き方改革の推進など、学校は様々な課題を抱えています。その中でも、一昨年度末からのコロナ禍への対応は、全ての学校教育活動に大きな影響を与えています。

また、本県においては、東日本大震災及び原子力災害から10年が経過しましたが、未だ、地元で

の再開が果たせない学校もあり、復興は道半ばであります。今年度は第二期復興・創生期間の初年度であり、風化防止や風評払拭に正面から向き合い、放射線教育や防災教育を改めて重点事項とし、放射線や震災を理解し説明できる人材の育成について決意すべき時であるとも考えます。

本会は、各学校の実態を踏まえ、「教育活動の正常化と当面する諸課題の解決」という基本方針のもと、次の4つの観点を重視しながら、各専門部会を中心に年間の活動計画に従って事業を展開してまいります。

- 1 校長会は、校長自らの見識・資質等を高める研修の場であり、情報共有を進め、その成果等の効果的な活用（教育行政への提言等）を推進します。
- 2 「全日中新教育ビジョン」を踏まえ、学校からの教育改革に努めます。
- 3 教育公務員としての誇りと使命感を持ち、不祥事根絶に努めます。
- 4 教育諸条件の整備・充実と教職員の処遇改善に努めます。

校長として「学校は復興のシンボルであり、復興の活力源である」こと、また、「学校は命と健康が輝く場所である」ことを肝に銘じ、学校経営の最高責任者としてのリーダーシップを発揮し、子どもたちが郷土への誇りと自信、将来への夢と希望をもち、福島県の復興・創生を担う人材として成長するために「生き抜く力」と、「よりよい社会を形成する力」を育めるようにすることが重要になります。

会員の「誰も一人にしない校長会」として、今後も各支会との連携を密にし、会員の総力を結集するとともに、県及び各市町村教育委員会、並びに関係機関等のご指導とご支援を賜りながら、本会の組織的で継続的な活動を通して、「教育活動の正常化と当面する諸課題の解決」に全力で取り組む考えであります。

終わりに、会員の皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます、就任のあいさつといたします。

令和3年度 第71回福島県中学校長会総会

令和3年度第71回福島県中学校長会総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、4月21日にパルセ飯坂に於いて、第1回理事会と兼ねて開催されました。議案につきましては以下の内容として、第1号議案「令和2年度福島県中学校長会会務・事業に関する件」、第2号議案「令和2年度福島県中学校長会会計決算の承認に関する件」、第3号議案「令和3年度福島県中学校長会役員選出に関する件」、第4号議案「令和3年度福島県中学校長会事業計画に関する件」、第5号議案「福島県中学校長会会計予算に関する件」、第6号議案「令和3年度東北地区中学校長会役員候補者（福島県選出）に関する件」について審議を実施しました。

議決に際しては、代議員27名から、各支会長への委任を提出し、その後18名の理事による決議を行いました。その結果全18理事から各議案の承認を受け、議案はすべて原案通り議決されました。

例年は総会後に小・中合同開会式が実施され、福島県教育委員会教育長様や福島県市町村教育委員会連絡協議会長様などからご祝辞をいただき、昨年度で退会された役員の代表より挨拶をいただいておりますが、残念ながら昨年度に引き続き中止となりました。

今年度はこのような状況下での本会のスタートとはなりましたが、会員216名がひとつのチームとなり、本県の中学校教育発展のために、新しい体制でスタートすることができました。

新型コロナウイルス対策で各支会、各学校がいまだかつてない状況下での学校運営をしている中、今こそ会員の英知を出し合い困難な状況を打開していくことが肝要であり、新しい生活様式のもと子どもたちの健やかな成長を支えていくために本会の活動がよりいっそう重要になると思います。



令和3年度 組織及び役員一覧

※ 理事が2名いる支会（福島・郡山・いわき）の会長：◎印
※ 常任理事：○印

役 職 名		氏 名	勤 務 校
会 長		佐 藤 浩 哉	福 島 一
副 会 長	行 財 政	目 黒 満	信 陵
	研 究	長 嶺 吉 浩	若 松 三
	進 路 指 導	星 健 一	中 村 二
	生 徒 指 導	原 真 児	郡 山 二
監 事		熊 坂 洋	小 原 田
		坂 口 伸	高 田
		小 野 匡 之	内 郷 一
理 事	福 島	◎目 黒 満	信 陵
	福 島	佐 藤 浩 哉	福 島 一
	伊 達	岡 崎 秀 一	伊 達
	安 達	○高 橋 一 彦	小 浜
	郡 山	◎原 真 児	郡 山 二
	郡 山	芳 賀 俊 幸	郡 山 六
	岩 瀬	春 山 晃 祥	鏡 石
	石 川	富 岡 信	石 川
	田 村	堂 山 昭 夫	三 春
	東西しらかわ	○小 林 敏 史	白 河 二
	北 会 津	長 嶺 吉 浩	若 松 三
	耶 麻	○押 部 秀 隆	喜 多 方 二
	両 沼	高 橋 由 江	新 鶴
	南 会 津	我 妻 雄 比 古	下 郷
	相 馬	星 健 一	中 村 二
	双 葉	○早 川 良 一	檜 葉
	い わ き	◎森 義 彦	勿 来 一
	い わ き	塚 本 英 樹	平 一

【事務局】

事 務 局	事 務 局 長	渡 部 光 毅	福 島 三
	行 財 政 部 会 長	福 地 淳 一	清 水
	研 究 部 会 長	嶋 原 俊 洋	渡 利
	進 路 指 導 部 会 長	阿 部 孝 寿	松 陵
	生 徒 指 導 部 会 長	中 村 徹	蓬 萊
	広 報 部 会 長	佐 藤 成 紀	ふくしま支援
	庶 務	福 地 裕 之	福 島 四
	会 計	岩 野 政 二	山 木 屋

学校教育の今日的課題



—学校経営を考える—

福島県中学校長会副会長 星 健一
(相馬市立中村第二中学校)

1 はじめに

会員の皆様には、相馬支会をはじめ東日本大震災及び原子力災害の被害を受けた多くの学校への継続的なご支援を賜り、衷心より感謝申し上げます。震災から10年が経過しましたが、未だ風評被害は進行している状況です。近年の学校の状況としては、平成29年3月に相馬市立玉野小・中学校が閉校、また令和2年3月に飯舘村立小・中学校が閉校して4月に飯舘村立いいたて希望の里学園(義務教育学校)として開校、さらに令和3年4月に南相馬市立小高・福浦・金房・鳩原の4小学校が統合して小高小学校として開校し、小高中学校と相互に乗り入れ授業をするなど連携した教育を行っています。特に今年度は、各地域の実情に合わせて、支会内12校の校長が復興・創生に向けて密に情報共有・連携を図っているところです。

2 意識改革

さて、新型コロナウイルス感染拡大防止のための全国的な臨時休業が続いた昨年、各校で児童生徒の学びを止めないための方策を探り、校長のリーダーシップの下、創意工夫した教育活動が展開されました。ある学校ではICTを活用しオンラインで学習支援をするなどして、児童生徒が自宅で学習する機会を設定しました。いずれにしても、これまでの教育活動の在り方を問い直さなければならない、まさに意識改革が求められる局面でした。

このような状況に際しては、校長が学校医の助言をいただき、医学的・科学的根拠を基にしながら、地教委の指導に則った学校経営方針を打ち出す時であると考えます。

支会内には、臨時休業後の学校再開に際して、地教委の再開計画を自校化し、学校だよりとして生徒や保護者・地域に情報発信を続け、功を奏した学校があります。その学校では、学校の「今」をお知らせすることを第一義としながらも、生徒・保護者を啓発する記事を「最近読んだ本より」

というコーナーで発信を続けています。そして、号を跨いで「次号に続く」として、次に発行される学校だよりを心待ちにしてもらう工夫もなされています。継続的な学校からの情報発信により、学校経営の方向性を示し、学校と保護者が共有理解を図ることで、保護者が安心して児童生徒を学校に送り出せる状況になっています。コロナ禍だからこそ、教職員が一つになって、できる限りの教育活動を推進していることを適時適切に情報発信するとともに意識改革を促している事例です。

3 人材育成

社会においては予測困難な時代と言われる状況の中、私たち校長には教育の専門家として課題を正しく把握して、その解決に向けて学校経営を進めていくことが求められています。また、「チーム学校」として教職員の持ち味を生かしながら教育活動にあたる組織をどう構築するか、校長のマネジメント力が求められています。

特に、教職員の大量退職時代を迎えた今、次の時代を担う教職員をどう育てていくかは喫緊の課題です。

ご経験された会員諸氏が多いと思いますが、これからの管理職候補と考えている教員に声をかけた時、「退職まで子どもと一緒に教育に携わりたいので…」と言って昇任を断るケースがあります。しかし、管理職であればこそ、より多くの児童生徒の未来に関わって、目の前の児童生徒に力をつけさせることができるはずです。

管理職が自分の職務に使命感を持って生き生きと職務に取り組み、その職の醍醐味を語っていく積み重ねが、次の世代の管理職を育てることに繋がっていくと考えます。

結びに、「学校は復興のシンボルであり、復興の活力源である」という県中学校長会の合言葉を再認識し、福島の実未来の希望である子どもたちのために、力を合わせて学校経営に真摯に取り組んでいきたいと考える昨今です。

令和3年度**「県中学校長会の活動と運営」**

福島県中学校長会事務局長 **渡部 光毅**
(福島市立福島第三中学校長)

今年度から、新学習指導要領が全面実施となりました。予測困難で変化の激しい時代の到来に向けて、新たな価値を生み出し、よりよい社会を形成していく人材育成がこれからの中学校教育の役割となります。各学校では移行期間で培ってきたこれまでの実践を生かし、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成しなくてはなりません。

そのためには、確かな学力の育成や道德教育の充実、豊かな心や健やかな体の育成を目指した「主体的・対話的で深い学び」を実現した授業改善の推進、「カリキュラム・マネジメント」の確立に向けた校長のリーダーシップがますます重要になります。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は現在も続いており、収束に向かうまで「新しい生活様式」の習慣化を図り、感染防止対策を継続する必要があります。その上で、授業時数の確保や修学旅行等の学校行事の実施、運動部や文化部各種大会への参加についても適切な判断が求められます。

本県中学校長会の活動においても、4月の県小中合同開会式を中止し、第71回福島県中学校長会総会を兼ねて第1回の理事会を開催しました。5月には、第1回小中行財政部会長会と第1回研究部会長会は予定どおり開催しましたが、県独自の緊急事態宣言発令により、期限内に予定していた第1回生徒指導部会長会と第1回進路指導部会長会を中止し紙面開催としました。緊急事態宣言解除後の6月以降は、第1回県小中学校長会合同理事会や第2回理事会等の会を開催することができました。今後も、県内の感染状況を考慮した上で、可能な限り活動を進めます。

令和2年5月に全日本中学校長会から「全日中新教育ビジョン」が新たに発刊されました。新会員へ歓迎と期待を込めた第4章「新会員の皆様へ」が加わると共に、喫緊の課題である新学習指導要領の円滑実施と学校における働き方改革の推進についても詳細に網羅されています。本県校長会と

しましても、このビジョンを受け、本県中学校教育の更なる充実と発展を目指し活動する必要があります。特に働き方改革については、昨年12月に、「「教員の働き方改革」宣言2020」の教育課程への反映状況調査結果を県校長会として公表しました。今年度も、宣言に基づく教員の働き方改革元年である昨年度の取組を再確認し、更なる改革を推進します。

福島県中学校長会研究協議会については、今年度は開催がなく、各支会での研究協議会となります。研究主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」を受けての最終年度となるため、各支会で分担された8つの小主題について、3年間の実践研究の成果と課題のまとめを行い、学校経営に生かせる研究集録を作成します。また、今年度より第二期復興・創世期間を迎えるにあたり、「ふくしまの今」に行財政部会と連携を図り、放射線教育の実施状況や先進校の取組等を加える予定です。また、次年度から新たな研究主題による研究が行われることから2021-2023年度版「研究の手引」の作成も研究部会を中心に同時進行で進めます。

終わりに、本年度も各部会での活動や各種調査を通して本県教育の充実・振興に向けた課題を明確にし、教育行政をはじめ各種団体、関係機関等への要望活動など様々な働きかけを行いますが、コロナ禍が続く中で、今後も昨年度のように活動期日や内容を変更せざるを得ない状況もあるかもしれません。しかし、このような状況だからこそ本会活動の成果を上げるために、感染防止を意識した教育活動の推進に向けて創意工夫を凝らし実践している学校の情報共有など会員相互の連携強化を図ると共に、県小学校長会や高等学校長協会、その他関係諸団体・機関との連携にも努めながら諸課題の解決を目指していきたいと思います。

会員の皆様の深いご理解とご協力をお願いいたします。

専門部会活動の概要

● 行財政部会 ●

県小・中学校長会の活動方針を踏まえ、互いに連携を密にしながら教育行政上の課題解決のために、組織的・継続的な対策活動を推進します。東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故から10年が経過しましたが、学校現場はまだ様々な課題を抱えています。さらに新型コロナウイルス感染症の影響などを把握し、課題解決を行っていくために、行財政に関する調査において特別調査を継続して実施します。

1 活動の重点

- 多様な教育活動に対応するための教育条件の整備・充実
- 教職員の待遇改善と福利厚生の上昇
- 当面する重要課題の調査研究と課題解決

2 調査研究活動

- (1) 令和3年度「教職員人事の反省」
- (2) 調査Ⅰ：教職員配置等に関する調査
- (3) 調査Ⅲ：教育施策の実施状況調査
- (4) 特別調査：大震災・原子力災害や感染症の影響に係る調査

以上の調査結果を分析し、課題を明確にして要望活動や教育懇談会、各支会の活動、学校経営に活用できる資料とします。

3 要望活動

佐藤浩哉県中学校長会長、佐藤秀美県小学校長会長を中心に要望団を結成し、9月に要望活動を行います。福島県人事委員会、福島県議会議員各会派等への要望活動を予定しています。

4 教育懇談会

福島県教育庁関係者との懇談会を8月18日(水)に予定しています。行財政に関する調査をもとに行政へ働きかけ、県の教育行政上の説明を受け、課題解決にあたります。

(行財政部会長 福地 淳一)

● 研究部会 ●

コロナ禍で先を見通すことが難しい中において、校長自らがリーダーシップを発揮し、諸問題にあたられていることに敬意を表します。

さて、今年度の研究にあたっては次の点を確認の上、各支会での研究推進をお願いします。

1 共通理解に基づく共同研究の推進

今年度は、3年継続研究の3年目(最終年度)となります。「研究の手引き」に基づき、8小主題について共通理解を図りながら、各支会毎に共同研究を推進します。その際、学校経営における新型コロナウイルス感染症のリスクマネジメントの視点や、校長としての具体的な対応等も踏まえた研究実践をまとめることとします。

2 研究集録の編集、刊行

今年度は県研究協議会は開催のない年度ですので、各支会からの研究の成果と課題を年度末に研究集録として刊行し、3年間の研究のまとめとします。(来年度の県研究協議会は県北開催です)

3 全日中、東北地区中と連携した研究の深化

今年度の東北地区中学校長会研究協議会岩手大会は研究報告書にて代替、全日本中学校長会研究協議会静岡大会はハイブリッド型開催で調整されています。刊行される大会誌等を通じて他都道府県の研究推進に係る情報等を収集し、各支会で活用していきます。

4 原発事故に関わり、学校教育が向き合った課題、対応等の記録の累積と発信

震災後11年目の新たなステージを迎える今年度も、研究集録の中に「ふくしまの今」～双葉支会の現状～を掲載し記録の累積を行うとともに、本県のかかえる課題等を全会員で共有します。さらに、福島県ならではの放射線教育の現状についても掲載し、発信します。

(研究部会長 鳴原 俊洋)

● 進路指導部会 ●

1 「社会を生き抜く力」をはぐくむキャリア教育の視点にたった進路指導の充実

- (1) 進路指導体制の改善・充実
 - ・進路指導の全体計画と校内体制の改善
 - ・新学習指導要領を踏まえた進路指導の充実
- (2) 適正な進路指導推進のための資料収集、整備活用の工夫
 - ・情報の収集、整理、活用と進路相談の充実
 - ・特別支援学級等における進路指導の充実を図るための資料収集と実態把握

2 高等学校入学者選抜方法の改善に向けた高等学校や関係機関との連携

- (1) 高等学校との連携
 - ・福島県高等学校長協会、福島県私立高等学校協会との話し合い活動の推進
- (2) 高等学校入学者選抜方法の改善、提言活動の推進
 - ・県立高等学校入学者選抜事務調整会議での要望、意見等の資料作成
 - ・入学者選抜の方法・内容に関する資料収集と資料提供の推進

3 適正な進路指導充実のための諸調査の実施と資料提供

- (1) 進路指導に関する諸問題の把握と資料提供
 - ・令和2年度末進路指導に関する調査の分析と連携のための資料提供
 - ・令和3年度末進路指導に関する調査
 - ・県下一円の進路動向調査の有効な活用
- (2) 学級活動の時間の充実のための副読本編集
 - ・「中学生活と進路(県版)」の編集と活用
- (3) 就職指導、専修学校・各種学校等の選択指導のための指導助言活動の推進
 - ・就職情報の収集と関係機関との連携強化

(進路指導部会長 阿部 孝寿)

● 生徒指導部会 ●

本県中学校長会として、生徒指導の充実を図るための基盤づくりを強化すると共に共通理解に立

ち、生徒指導の機能を生かすとともに、自己指導能力や規範意識を高める指導に努めます。特に、東日本大震災及び原子力発電所事故、コロナ禍に起因する生徒指導上の課題、発達障がいのある生徒への対応やインターネット利用の仕方等、今日的課題に対応しながら、生徒の心の問題や安全・安心に配慮した対策を講じます。

そのための組織の強化として、積極的に関係機関との連携を図ります。特に、小学校ならびに高等学校との連携を重視します。

1 自己指導能力の育成と規範意識の向上に努めます。

- ・自己決定の場や自己存在感を与える教育活動の充実と共感的な人間関係の形成
- ・共通理解・実践に基づく一貫性ある学習・生活習慣づくりの推進と協働体制による指導

2 震災、原子力発電所事故、コロナ禍にかかわる課題と当面する諸課題の把握、その解決や未然防止に組織を挙げて対応します。

- ・不登校、いじめ、反社会的行動及び虐待の実態把握と早期解決を目指した指導体制の確立
- ・SCやSSW等の専門スタッフのコーディネートを活用した「チーム学校」としての取組
- ・インターネット利用状況等の実態把握と情報モラル教育の一層の充実

3 小学校及び高等学校、家庭、地域、関係機関や関係団体との連携を強化します。

- ・他校種への理解の深化と効果的な情報の共有
- ・生徒指導主事協議会や学警連定例会等における研修の充実

4 生徒手帳を編集、刊行します。

(生徒指導部会長 中村 徹)

● 広報部会 ●

広報部会は、広報誌「福島県中学校長会広報」を年2回発行し、ホームページの維持・管理を行い、本会及び関係団体等の活動状況や会員に役立つ新しい情報などを提供し、活用促進を呼びかけ、広報活動の充実に努めます。

1 本会及び関係団体等の活動や動向についての情報を提供し、広報活動の充実に努めます。

- (1) 本会の組織・運営、事業内容、活動状況の報告
- (2) 各支会の活動及び、本会活動への会員の意見や感想の紹介
- (3) 関係団体等の活動概要の報告
- (4) 広報紙の発行とホームページの運営、資料の整理

2 関係機関・団体等との連携を深め、情報を提供します。

- (1) 関係機関からの情報把握と会員への早期周知
- (2) 諸活動の報告など

(広報部会長 佐藤 成紀)

第72回 全日本中学校長会WEB総会報告

第72回全日本中学校長会総会は、5月20日(木)昨年に引き続きWEB上で開催されました。

当日は、県校長会事務局にて佐藤浩哉会長(理事)及び代議員2名(日黒満副会長、渡部光毅事務局長)、その他の副会長3名はそれぞれの学校からZOOMにより参加していただきました。

午前中は、会長挨拶、文部科学大臣メッセージ、議事として、令和2年度の会務や決算報告、令和3年度の役員改正や活動方針、予算、第73回全日中研究協議会について審議され、決議されました。

冒頭の会長挨拶では、三田村 裕氏から昨年度の活動を振り返りました。新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、全国一斉の臨時休業

措置がとられ、新学期の始まりが5～6月にずれ込むなど、いまだかつて経験したことのない幕開けとなりました。その状況下に取り組んだ内容として、

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学びの保障
- ② 「全日中新教育ビジョン」の推進
- ③ 全国各都道府県中学校長会相互の緊密な協調のより一層の推進

を掲げ、着実な進行を見ることができました。

前会長の言葉を受けて、役員改正により承認された新会長の宮澤一則氏(東京都板橋区立中台中学校長)からは「全日中新教育ビジョン」のもと、校長が自分の言葉で自身のビジョンを学校内外に伝えていくことが大切であることを強調されて、午前の部を終了しました。

午後の部は、「当面する初等中等教育上の諸課題」と題して、瀧本 寛氏(文部科学省初等中等教育局長)による講演、文部科学省説明、新学習指導要領、GIGAスクール構想、いじめ対策等について、様々な視点からご示唆をいただき、改めて我が国の教育の在り方を考える機会となりました。

今年度も新型コロナウイルス感染症を考慮してのWEB上での開催となりましたが、有意義で貴重な総会となりました。



支会情報と特色ある経営

伊 達

伊達支会の活動



伊達支会長 岡崎 秀一
(伊達市立伊達中学校)

伊達支会は、伊達市、桑折町、国見町の3市町の計8校の中学校長で組織し、活動しています。今年度は、新しい会員として転入1名

を迎えてスタートしました。

また、地区の小学校長18名とともに「伊達地区小・中学校長協議会」を組織し、「伊達はひとつ」を合い言葉に、小・中学校長が連携・協力して地区の課題解決にあたっています。

1 伊達地区小・中学校長協議会の活動

基本テーマ「教育改革期における学校組織マネジメントの確立と推進」のもと、校長一人一人の職務遂行能力の向上のために研修に取り組んでいます。

(1) 定例研修会(年6回)

各組織の運営推進と状況の確認や県校長会の研究テーマをもとにした協議などを行っています。

(2) 教職員研究講座(年6回)

教職員の資質向上のため、教育委員会の協力を得て実施しています。

2 中学校長会の活動

(1) 定例会(年6回)

小・中学校長協議会にあわせて、学校運営上の課題や中教研、中体連、県校長会の各部の活動について、情報交換や協議を行い、伊達地区の中学校長として足並みをそろえ、協力しながら学校経営ができるようにしています。

(2) その他の活動

- 支会内の高等学校長との情報交換会
- 支会内の教育長との教育懇談会

《学校紹介》

地区初の小中一貫校

伊達市立月舘学園中学校

本校は、昨年4月に伊達市最初の小中一貫校として開校しました。「英語教育」「ICT教育」「地域教育」をコンセプトに掲げ、「3つの柱」によるコミュニケーション能力の育成に取り組んでいるところです。

(1) 9年間の連続した英語教育

- 系統的なカリキュラムによる授業実践
- ALT常駐による外国語教育の充実
- タブレットと電子黒板を活用したコミュニケーション活動
- スクールコミュニティとの連携

(2) ICT機器を活用した先進的な学び

- 一人1台タブレットを活用した授業実践
- 全教室への電子黒板(デジタル教科書)の設置と活用
- ICT支援員常駐による授業支援
- 文房具としての活用に向けた教員研修

(3) 地域のよさを学ぶ「ふるさと学習」

- 地域素材の教材化と地域をつなぐ体験学習
- 幼児との交流や地域の伝統行事への参画
- スクールコミュニティの授業支援と連携

本校は、月舘の子どもたちのための学校づくりを願う地域の声が届き開校した学校です。その期待に応えるべく、与えられた教育資源を有効活用した「質の高い教育」の実現に向け、昨年度から外国語科や音楽科の小中乗り入れ授業、日本初の二足歩行ロボットを用いたプログラミング学習をスタートしました。また「ふるさと学習」では、地域民話の「影絵」の伝承と地域の桃を使った「スイーツ」の開発に取り組みました。

今年度は県教育センター情報チームと連携した「一人1台端末活用に向けたICT教育」のモデルプラン研究など、地域の宝である子どもたちの学びをサポートし、しなやかに生き抜く力を育てる特色ある教育の実現を目指しています。



(校長 佐々木 透)

郡山

郡山支会の活動



郡山支会長 原 真児
(郡山市立郡山第二中学校)

郡山支会は、市内中学校25校と義務教育学校2校の計27校で組織されています。昨年度以降、諸会議の開催もままならない状況の中、

校長同士が相談できる唯一の機会である支会校長会だけはなるべく実施できるようにしようと、広い会場を確保するなどの様々な対策を講じてきました。

校長自身が難しい判断をしなければならない昨今、定期的に校長会に参加し、そこでの情報交換や助言などを心の拠り所としながら、それぞれに粛々と学校経営を進めているところです。

そのような中、今年度におきましては以下のような観点に重きを置いて、支会運営を進めたいと考えています。

1 コロナ関連情報共有の手順化

特に現在のコロナ禍においては、素早い情報共有と素早い対応が求められます。行政が発信する情報を見極め、情報共有の必要性を確認した上で、速やかに情報が流せるよう、必要な手順を共有しました。これにより、各校の先手を打った対応に寄与できるものと考えています。

2 全国・県・諸団体等に係る情報の共有

支会会員が様々な会議等で得た情報を支会全員に詳細に伝達することにより、皆、客観的な視野で学校経営ができるよう配慮しています。

3 主催行事の削減

感染拡大の状況に関わらず、1年間を見通し、精選すべき行事については思い切って整理することにしました。その際、関係諸団体や各学校には丁寧に説明、対応するよう、担当者同士で共通理解を図りました。

4 各学校の課題意識の共有

情報交換や相談の時間を可能な限り捻出し、各学校の率直な悩みなどが相談できる場として機能するよう、無駄を省いた会運営を心掛けています。

《学校紹介》

「共に」を大切にした教育の推進

郡山市立西田学園中学校

県内初の義務教育学校として開校し、4年目がスタートしました。これまでの3年間の成果と課題を踏まえ、「義務教育学校のメリットを生かす」ことをテーマに、2021年度のスローガンを、「『共に』を大切にした教育の推進」としました。

1つめは、「教師と共に」です。普段から小学部と中学部の先生方が授業を見合うこと、研修を一緒に行う等、授業力向上のため共に学んでいます。特に、各教室に設置してある60インチのモニターや一人一台のタブレット端末等をフルに活用し、Wi-Fi環境を生かし、生徒の考えを映し出しながら、どのように考えたのかを説明させるなど、コロナ禍にあっても主体的・対話的で深い学びにつながる学習活動の在り方について研修しています。

2つめは、「友だちと共に」です。9年生をトップとする西風ファミリー（縦割りによる異学年交流）を通して、思いやりの心の醸成に努めるとともに、切磋琢磨する心を育てています。

3つめは、「保護者と共に」です。9年間、学校・家庭が同じ方向で子どもたちを支援できる強みを最大限に生かし、保護者とのコミュニケーションを大切にしています。

4つめは、「地域と共に」です。子ども見守り隊による登下校の安全確保をはじめ、地域素材を存分に生かした地域学習（西田学習）に取り組んでいます。また、コミュニティ・スクールとして地域を基盤とした教育支援体制が充実しています。

コロナ禍にあっても、教育課程を柔軟に対応できる義務教育学校のメリットを生かし、本校の教育理念である「9年間の小中一貫教育により、地域と共に児童生徒の夢を叶える学校」を目指して、誠心誠意学校経営に取り組んでいます。



(校長 半沢 一寛)

東西
しらかわ

東西しらかわ支会の活動

東西しらかわ支会長 小林 敏史
(白河市立白河第二中学校)



平成25年度に東白川郡の4校と西白河郡の14校が統合した東西しらかわ支会も、今年で9年目を迎え、統合当初のスローガンでもあった「東西は一つ」を合い言葉に、自校はもとより域内の教育の充実と発展のため和やかな雰囲気の中で連携を密にしながら互いに切磋琢磨しております。

今年度は3名の新しいメンバーを迎えました。うち2名は教育行政機関からの昇任、1名は再任用校長として小学校から中学校へ。いずれも力ある先生方で、今まで以上に支会の活動が充実することと確信しています。

さて、今年度の支会の活動を進めるにあたり、年間を通して検証すべき事として確認し合った事項についてご紹介します。

1 新型コロナウイルス感染症への対応

これまでに得られた知見を基に、感染リスクを下げるためのさらなる工夫をしていくこと。また、「できない」ではなく、「どうすればできるか」という視点にシフトしていくこと。さらには、情報の共有を図り、同一歩調で進めるべき事と、各校の判断に委ねるところを明確にすること。

2 GIGAスクール構想への対応

教職員のICTスキルの向上のため、研修の充実を図ること。実践事例の積み上げと共有を進め、支会全体のICT教育の質を向上させること。

3 新採用教員等若手の育成

個々の良さを見つけ、伸ばし、教職の素晴らしさを実感させること。併せて30代のミドルリーダーの育成に全力で取り組むこと。

年間5回予定されている研修会では、現場での諸課題はもちろん、時代や社会の要請等を取り上げ協議・研究を進めるとともに、互いの悩みや想いを自由に語り合い、笑顔溢れる憩いの場としながら、校長一人一人の力量の向上に努めたいと思います。

《学校紹介》

矢吹創生学

矢吹町立矢吹中学校

本校では今年度から総合的な学習の時間を使って「矢吹創生学」を始めました。これは生徒達が日々生活する町の今を知り地域の様々な課題をとらえ、解決を目指す活動を通じて、学校で日頃学んでいることと実社会を結んで自分と社会の改善のための努力をし、未来をよりよく生きる力を育もうとするものです。学校の学びと実社会のずれ(学びの空洞化)を埋めるのは「社会参画力」。「社会参画力」とは、地域社会の課題をとらえ、自分ができることを考え、参画しながら自分と社会を改善していく力。その力を育む「矢吹創生学」を開発することは生徒の学ぶ意欲、生きる意欲を掘り起こすことにつながります。「人とのつながりを作り出せる生徒を育てたい、つながることでよりよい社会をつくりながら豊かに生きていける生徒を育てたい、それは未来をつくることである。」という信念からはじめました。10の大テーマをもとに27の中テーマを設け、生徒が希望する縦割り班を結成し、そこから生徒達がそれぞれ小テーマを設け、地域のサポーターの方々と共に活動します。例えば、大テーマ“農業”中テーマ“米”という班には17名が手を挙げました。彼らは矢吹町の気候風土から現在行われている米作り作業の様子をとらえ、未来の矢吹町の米作りはどうあるべきかということを一月に発表する予定です。生徒達には「あくまで郷土を愛する心からの自発的な活動とするため、あえて活動の評価はしない」と伝えてあります。全7回中3回目は蛭田町長に「町への熱い想いと若者に期待すること」について講演いただきました。地域を巻き込み、この活動を育てていきたいと考えます。



(校長 荒井 孝祐)

北会津

北会津支会の活動

北会津支会長 長嶺 吉浩
(会津若松市立第三中学校)



北会津支会は歴史と文化、自然と産業が調和した3市町(会津若松市、磐梯町、猪苗代町)の14中学校と1義務教育学校で組織しています。

最澄に教義論争を挑んだ徳一は仏都会津(文化庁「日本遺産」認定)の礎となる慧日寺を今の磐梯町に開基しました。会津藩祖・保科正之(家光の異母弟)が眠り、野口英世を輩出した猪苗代町。会津若松市は戊辰戦争の激戦地、義を通したもののふの街。さらには磐梯朝日国立公園を抱き、水力発電を興し日本初の高圧長距離送電電を実現。現在は半導体や電子精密機器の生産基地にもなっています。

私たちは、校長会をはじめ中体連、中教研等々の活動を進める際、「会津はひとつ」を合い言葉に一致団結して取り組んでいます。

- 1 今年度は東北地区中学校長会岩手大会、全日中静岡大会で第6小主題【生徒指導】での発表があります。コロナ禍でもネットでの情報共有や意見交換を行い、本支会の取り組みを県代表として発表します。また、令和5年の東北大会は会津若松市での開催です。会津のおもてなしで充実した研修会となるよう準備を進めて参ります。
- 2 校種別校長会との連携。小学校長会と協働し、教育課題の解決に取り組んでいます。さらに高校長協会とは年1回ですが研修会を開催し、進路や学力向上について意見交換し、加えて高校説明会を主催して、各中学校での高校卒業後を意識させた進路指導を支援しています。
- 3 中学校体育大会の再構築。生徒の減少や部員の偏在により支部大会の開催が困難となっています。中体連や地教委と連携し、支部・地区中体連合同開催や新人戦の廃止、部活動合同練習会の実施により、生徒の活動機会を確保すると共に教員の多忙化軽減を図っています。

《学校紹介》

学園構想への第一歩

会津若松市立河東学園中学校

本校は今年度から義務教育学校となり、念願の「河東学園」構想への第一歩を踏みだしました。

校長会広報第162号に「学園構想の実現をめざして」というタイトルで執筆させていただきました。河東学園中学校開校時は、そこに載せたように小中一貫校的な連携を目指していたのですが、発足したばかりの学校運営協議会からは連携不足の指摘と共に、より一層の連携を求める意見が多数出されました。遅れの原因は様々あり、小・中学校教育文化の違いや校種それぞれの思いを一つにする難しさであると思いました。

そこで、「未来を生きる河東の子どもたち」のためには、学校が一つになることが最善の方法であると考え、学校運営協議会に諮ると、委員のほぼ全員の思いも「学園構想の実現」にあり、義務教育学校化の流れが加速しました。しかし、コロナ禍のために多くの人々を集めての説明会等が開催できないという問題に直面しました。

市教育委員会の支援により、説明会を工夫して開催し令和3年度開校ができましたが、1つの義務教育学校としての環境づくりはこれからです。

その一つは、全教職員が執務できる職員室がないことです。本校は、センター棟を挟んで前期課程棟と後期課程棟があります。両課程の教職員が互いの動きを見ることができないというマイナス面があります。しかし、それぞれが別の時程で動くことが可能になるというプラス面もあります。

他にも多くの課題がありますが、プラス面もより多くあります。「未来を生きる河東の子どもたちのために」を共通理念として、これからも改善を加えながら教育活動を展開していきたいと思っています。



河東学園正門から

(校長 遠藤 修一)

新 会 員 紹 介

支会	氏 名	校名	支会	氏 名	校名	支会	氏 名	校名
安 達	高 原 栄 治	岩 代	北会津	秋 山 了	磐 梯	相馬義務	山 田 徹	いいいて希望の里学園
安 達	齋 藤 直	東 和	北会津	古 川 雅 秀	碓 氷(猫代)	双 葉	佐 藤 仁	葛 尾
郡 山	大 内 晋	御 館	耶 麻	佐 藤 毅	喜多方三	双 葉	大 沼 俊 之	双 葉
岩 瀬	邊 見 浩	小塩江	耶 麻	佐久間 徹	会 北	双 葉	武 内 雅 之	富岡一・二
岩 瀬	濱 津 太	天 栄	耶 麻	菅 野 泰 英	山 都	双 葉	小 林 喜 徳	広 野
石 川	上 野 康 生	古 殿	耶 麻	鈴 木 築	高 郷	双葉義務	柳 沼 敏 文	川内小中学園
田 村	榊 原 康 夫	都 路	耶 麻	佐 藤 崇 史	西会津	いわき	渡 邊 文 暁	大 野
田 村	高 田 秀 人	船引南	両 沼	高 橋 祐 一	坂 下	いわき	嶋 原 靖 宏	桶 売
田 村	木 幡 健	岩 江	両 沼	宮 城 裕 樹	湯 川	いわき	吉 澤 勉	小白井
東西しかわ	星 野 亜 希	大 信	両 沼	佐 藤 隆 彰	昭 和	いわき	鈴 木 隆	内郷三
東西しかわ	亀 田 征 利	中 島	南会津	大 内 進 矢	荒 海	いわき	佐 藤 英 勝	川 部
北会津	津 田 直 子	大 戸	南会津	星 英 典	只 見			

新 会 員 の 声

SDGsに取り組む生徒たちと未来へ

只見町立只見中学校 星 英典

4月6日、町内3つの小学校から34名の新入生を迎え入学式が行われました。新任校長として着任してから緊張の連続でしたが、入学式を無事終え、103名の全校生徒の健やかな成長と未来への可能性を考えたとき、改めて校長としての職責の重大さを痛感しました。

只見町は平成26年ユネスコエコパークに登録され、町内小中学校はユネスコスクールとして教育委員会を中心にESDに取り組んできました。そのような素地もあり、昨年度、只見中学校では海洋ゴミ削減について生徒が話し合い、新聞紙レジ袋やSDGsバッジ作り等に地域のご協力をいただき共に取り組み、ESD大賞（文部科学大臣賞）を受賞しました。

今年度は、これらの活動を発信すること、SDGsの17の目標の関連を総合的、統合的に考える教科等横断的な学習の充実を図っていかようとしています。

校長として、生徒たちの輝く笑顔と先生方の真摯な教育への情熱に支えられている毎日、まだまだ足りないところばかりです。そんな中、南会津支会の校長先生方や前任の校長先生、そしてこれまで一緒に働かせていただいた校長先生方の存在は有り難く、たくさんのことを教えて下さいます。

生徒たちが、将来、「只見中学校を卒業してよかった。そして、持続可能な故郷・只見づくりに貢献したい。」と思うことができるよう、SDGsのスローガンLeave No One Behind（誰一人として取り残さない）を合い言葉に、教職員・生徒・保護者・地域が一体となった学校づくりに邁進したいと思います。

『全躍』～チーム内郷三中～

いわき市立内郷第三中学校 鈴木 隆

毎朝元気な声で「おはようございます。」と満面の笑みでありさつを交わす生徒と教職員がいる学校、それが私が4月から赴任した内郷三中です。いわき市内郷地区西側の高野町にある、高野小と3階建ての校舎をちょうど半分から縦割りにしている学校です。校庭の中央近くには、学校のシンボルである「くすの木」の大きな木が鎮座し、9年間の子どもたちの成長を見守っています。

今年度は、「和と絆」を運営ビジョンに掲げました。「和」は、生徒や教師、家庭や地域と共に支え合うこと、「絆」は生徒、教師、家庭、地域との確かな信頼関係の構築を日々推進することです。

5月に、昨年度はコロナ禍で中止にした小中連合の運動会を実施しました。実施にあたっては、区長さんやPTA会長さん、高野小と内郷三中の教職員で、子どもたちの安心と安全を確保しながら2年ぶりの運動会のために慎重審議を重ねました。まさに、和と絆を実感した行事でした。最終的には無観客の連合運動会でしたが、小学校1年生から中学校3年生まで全員が輝いた運動会でした。練習時間を十分に確保することができないなか、教職員は生徒に寄り添い、生徒と共に素敵な運動会にするために尽力しました。チーム内郷三中、チーム小中連合を実感した行事でした。

今年度の内郷三中のテーマは『全躍』です。生徒会のテーマでもあります。これは、全生徒と全教職員が、活躍し、躍動し、躍進することを目指すことです。みんなで協力しながら『全躍』し、より強固な「チーム内郷三中」を目指し、教職員と生徒が一丸となり邁進します。

日本は昔から災害が少なくない国ですがその都度復興してきました。地震、津波、原子力災害の重なった東日本大震災から数年が経過し、ようやく復興の姿が形になり始めると新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、日本では現在もまだ安全安心な社会生活を確認できるまでには至っていないのが現状です。改めて災害に立ち向かってきた、震災当時の学校関係の記録を読み返すと、学校の努力というもの、子どもたちの姿、教職員の努力する姿に心を打たれます。

さて1年ぶりに中体連各種競技大会が開催され、様々な競技を観戦する機会に恵まれました。

一生懸命にプレーする子どもたちにひたむきな気持ちや若いエネルギーを感じました。試合の中ではチームオリジナルのセレモニー(行動様式)があることがわかります。チームやペアの間で開始前にそれぞれが独特の掛け声や動作で一つにまとまっていく姿です。また特別なセレモニーを行わず自分たちの強い責任感を前面に表して淡々と役割をこなさるチームがあります。どちらにも強豪チームがあり、今まで培ってきたそれぞれのスタイルだと思われました。

組織というもののまともは、外から見るとこんな風に見えるということにドキリとさせられます。学校組織にも運営のやり方でいろいろな姿があるものです。

社会はグローバル化や情報化が急速に進展し目まぐるしく変化し続けています。社会の変化は恐ろしいスピードで加速し、その変化を予測することも困難な時代であるといわれ、そんな時代を生き抜く子どもたちの資質・能力を育成することが現在の教育現場、社会全体の課題であることは疑いありません。ところで震災やコロナ禍は社会の中で起きる予想や予測とは異なるものですから、震災以降の人々の心の変わり様は、社会の変化ではなく「変容」という側面で捉えることができていると考えています。社会はさらに多様になってそれまでの価値観が見直され、人とのつながり

を強くし、人の心や命について身近に感じ生活していくようになりました。最もこれも情報技術の著しい発展によるものに違いありません。

急激に変化する社会に生き抜くことが求められる子どもたちですが、震災やコロナ禍の状況下での実態はこれからの調査や統計によって明らかになってきますが、少なくとも今は、身の回りの大人がお互いに知恵を出しあい、温かい心や理性によって乗り越えてきた結果の子どもたちの姿ではないかと思っています。また子どもたちの行動が急激に悪い方に変わってきたということも諸調査に表れてきてはおりませんし、実感もありません。今後明らかになってくるものと思います。

子どもたちを取り巻く環境は今後めまぐるしく変化し、それに伴って学校現場においては様々な課題が生まれてくることが予想されます。「脱皮しない蛇は死んでしまう」という喩えはかつて勤務した学校で節目節目に市の教育長から伺っていた言葉です。鮮烈に耳に残っていたものですが、年月を経るごとに言葉の深みや重みがわかったような気になっています。学校文化の中ではどちらかというと教職員は変化を好まない傾向

にあります。世間は変化を求めます。そこで校長は求めに応じた変化を当然成し遂げていかなければなりませんし、そうすべきだと思っています。校長は先を見ながらリーダーシップをとっていくものです。同時に足下も見ることがあります。変化に目を奪われすぎないようにする注意が必要だからです。

組織で一つのことに取り組むと、広く豊かな成果につながることがあります。一つの取組が次の取組につながって、ものごとをよい方へと向かわせてくれることがあります。学校も人と人とのつながりでできあがります。人と人とを丁寧につないでいくために必要なものは、それぞれあるでしょう。1年ぶりの中体連大会を迎えた子どもたちの笑顔はそんな思いを巡らせてくれました。

随想



福島県中学校長会副会長
長 嶺 吉 浩
(会津若松市立第三中学校)

不易と流行+α

(一財)福島県教育会館 事業ご案内

福島県教育会館の下記事業につきまして、ご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

●夏休みの友 ●福島県立高校入試問題集 ●福島県書きぞめ展 ●教育関係者名簿 ◆大ホール・貸し会議室(教育関係者は半額)
福島市上浜町10-38 office@kyouikuikaikan.jp TEL 024-523-0206 FAX 024-523-0208



福島県中学校長会ホームページはこちらのQRコードから